

ガバナー就任の挨拶

第266地区ガバナー

飯 沼 剛

輝かしい伝統と歴史ある国際ロータリー第266地区のガバナーとして、皆様にご挨拶申し上げます。誠に光栄に存じます。

75年前ポール・ハリスが3人の友人と共に第一歩を踏み出したロータリーが、今日153カ国、18,553ロータリー・クラブ、857,000名の会員に発展したことは誠に驚異であり、その歴史を学ぶことは意義深いことでもあります。

然しながら私は76年目を迎えるに当り、単に過去の歴史を顧みるだけでなく、皆様と共にロータリーの歴史に新しい1頁を綴る気迫をもって進みたいと思います。

かつてバーナード・ショウは「ロータリーは何処へ行くか」と聞かれた時、「ロータリアンは昼食会に行く」と答えたそうでありませう。さて私達はなんと答えたらよいでしょうか。この機会に再びロータリーについて考えを新たにすることを感じます。

毎年新しく発表されるR.I.会長のメッセージは、すべて手続要覧に明記されている基本的思想に基づいて構成されています。改めてもう一度要覧を振り返ってみましょう。

手続要覧の「ロータリーの基本的特色」によれば

- 1)ロータリーは奉仕の理想に基づく世界中の人々との理解、親善及び平和の発展、鼓吹、育成に関係している。
- 2)ロータリーは個人に重点をおいて、奉仕の理想を個人的並に集団的に実行する。
- 3)ロータリー・クラブはその会員を職業分類

により選ぶ。

- 4)クラブ例会への出席は会員身分存続の義務であり、会員相互の交友の第一歩である。
- 5)ロータリー・クラブは会員に職業の道徳的水準を高め、これを実現する機会を与える。
- 6)ロータリアンの宗教的、政治的信条は会員個人の問題で、公民として忠誠を期待されている。

以上の6項目が基本として要請されており、かくてロータリアンはクラブ例会に出席することによってロータリーの奉仕の理想の基本を学びます。クラブは奉仕する善良な会員を作るのが目的であり、地区はクラブに対し、国際ロータリーの指針を伝達し、実際的には助言を与え、又その為に実際的な奉仕の事例を提供することもあります。

国際ロータリーは本来直接的な奉仕活動を行いません。しかし例外としてロータリー財団の活動を通して参加することはあります。

ロータリアン個人の奉仕活動が活発であれば、クラブも、地区も、まして国際ロータリーも直接奉仕活動に乗り出す必要もなく、広報も勞せずして自然に拡がるものであります。

私は年度の初めに当り、奉仕の人としてのロータリアン個人、個人の自覚と奮起をご期待申し上げます。

ロータリーの管理、運営は出来るだけ単純で、簡素であることが望ましいと思いますが、歴史が古くなりますと慣例が必要以上に重要視され、その慣例を守ることによって恰も伝

統の精神が守られたと錯覚され勝ちであります。私はロータリーの組織はあくまでもクラブ単位であり、ロータリーの簡素化はクラブの自主性、独自性に初まるものであり、それがクラブの円滑なる運営につながるものでであると確信いたします。

今年のテーマは「TAKE TIME TO SERVE」
「時間を捧げよう - 奉仕のために」であります。歴代R.I.会長のテーマは非常によく似ていますが、それは当然であります。「超我的奉仕」は大きな挑戦であり、ロータリアンは時計の歯車の1つの歯のようなものでなければなりません。これが円滑に動くことが大切であります。「超我的奉仕」を空虚なものにせ

ず、その責任をすべての場に、即ちクラブに、自己の職場に、地域社会に、全世界に、あなたの時間を奉仕のために捧げましょう。

最後にクラリッヒR.I.会長のお言葉を紹介し、本年度の方針の結びと致します。即ち会長は「私の年度がロータリーの最大の、最良の年となることはお約束致しかねますが、最善を尽すことをお約束致します」と申されました。

又エバンス元会長のお言葉として「私の余生はあと15年、5375日しかないとすれば、私はロータリーの為に尽すことを喜びとし、人生の1年、1年を愛するもの、信ずるものの為に生きて行きます」と申されました。

伊瀬芳吉直前ガバナーへの感謝

ガバナー 飯 沼 剛

昨年3月地区年次大会を目前にして、当時の伊瀬ガバナー・ノミニエが突然発病せられました時には、当時の伊藤ガバナー初め関係者一同は愕然と致しました。

幸いに病状も軽く、経過良好でありましたので責任感の強い伊瀬さんは療養半ばにして、国際協議会に出席のため渡米されました。

私達は大変心配しておりましたが、伊瀬さんは驚く許りのお元気で帰国され、落付く間もなく地区協議会に於て、ボーマーR.I.会長の指針“奉仕の灯で道を照らそう”をとうとうと論じられました。

伊瀬さんは外柔内剛、温厚なご性格ですが内に秘めた闘志と情熱は素晴らしいもので、たくましい実行力となって発揮されました。

前々年度の米山委員長としての赫々たるご業績により地区内会員より“米山ガバナー”の愛称を奉られた程であります。

本年度はロータリー創立75周年の年に当り、その記念行事、3-Hプログラム等極わめて多忙な1ヵ年であったにも拘らず、地区内86クラブの公式訪問は勿論極わめて規帳面に、極わめて内容あるご指導を賜りました。

又ボーマーR.I.会長の年度方針を忠実に守られ、各クラブに対するR.I.会長の7つの目標の殆んどすべてを達成されたのであります。

片眼の達磨で出発された伊瀬ガバナーは立派な業績をあげられて両眼を入れられた訳であります。

地区年次大会も大成功で懇親会の席上“俺は元気だぞ”ともう1ヵ年ガバナーを務めてもよいと云わん許りの気迫を示されました。誠にご同慶に耐えない次第であります。

今後共に益ますお元気でご指導、ご援助を賜るようお願い申し上げまして、ご任期中のご苦勞への感謝の言葉と致します。